

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570800577		
法人名	社会福祉法人 鼎会		
事業所名	グループホーム かなえ		
所在地	山口県岩国市錦見3丁目7番55号		
自己評価作成日	平成27年2月1日	評価結果市町受理日	平成27年6月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市街地にありながら幹線道路より少し入っており静かな環境にある。木の温もりに囲まれた日本家屋を意識した設計で囲炉裏などもあり落ち着いて生活できる。職員が計画して行なっている外出の他、近隣の商店への買い物等、外出の機会も多い。食事は毎食ホームで手作りしており、菜園や買い物等で旬の食材も多く取り入れ、家庭的な雰囲気がある。年に数回は出張料理で地域の料理店に来てもらい喜ばれている。併設の管理栄養士・看護職員と連携する事で健康面で安心して暮らせる。長く勤務している職員が多く入居者や家族と、馴染みの関係が出来ている。運営推進会議を通じてボランティア(傾聴・生け花・折り紙・紙芝居)の訪問もあり、地域の方々との繋がりも多い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の菜園で、玉ねぎやさつま芋などの植え付けや収穫をされたり、食事づくりや居室の掃除、ゴミだし、洗濯物たたみなど、利用者が家で暮らしているような感覚で過ごせるように支援しておられます。入居前に利用者の自宅を訪問され、居室が自宅と同ような雰囲気になるように配慮され、利用者が安心して過ごせるように工夫しておられます。事業所の菜園で採れた旬の野菜などの食材を利用され、食事は三食とも事業所で調理しておられます。季節料理や行事食、月1～2回の外食、年4回の啓太リングなど、利用者が食事を楽しめるように工夫されています。周辺の散歩や買い物、馴染みのある近隣観光地の観光や花見、動物園や芝居見学など、戸外に出かけられるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が考えて作り上げたものを理念として掲げており、玄関、事務所内に掲示し会議でも唱和をし、日々のケアに活かしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を作成し、事業所内に掲示して、日々確認している。会議では、職員全員で唱和して共有し、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人で近隣の自治会に加入している。地域の行事に職員や入居者が参加している。	法人が自治会に加入し、職員が地域の清掃活動に参加したり、地域のどんど焼きに利用者が参加している。傾聴や紙芝居、生け花などのボランティアの来訪があり、利用者と交流している他、法人の絵画教室や行事に参加し、交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が認知症キャラバンメイトとして活動をしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の内容は、日々のケアについて必然なものとして捉えている。改善すべきことは取り入れている。	管理者が評価の意義について説明し、全職員が自己評価をするための書類に記入し、グループホーム会議で話し合い、管理者がまとめている。ヒヤリハット記録についての見直しをしている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で、ホームの活動状況等を毎回報告しており、意見をいただき取り入れている。	年6回開催し、活動報告やヒヤリハット・事故報告等を行い、意見交換している。風水害時の対応やヒヤリハット・事故報告についての質疑をしているが、会議での意見をサービス向上に活かすまでには至っていない。	・運営推進会議を活かした取り組み
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市へは利用状況を毎月報告している。包括支援センターには運営推進会議を通じて報告、相談をしている。	市担当課へは、毎月、利用状況を報告している他、疑義や新たな申請事項が生じた時は、電話や出向いて相談し助言を得るなど、日頃から協力関係を築くように取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間を除いては施錠することはせず、センサーを設置しチャイムなど自然な音としている。拘束もせずセンサーで対応している。	職員は法人研修で学び、職員全員が身体拘束について正しく理解し、玄関の施錠やスピーチロックを含め身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で研修を行っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されている入居者はいないが、学ぶ機会を設けたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には充分時間をかけて、口頭や文書で説明を行っており、その都度理解をしてもらうように努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に説明を行っている。玄関に関係部署の連絡先を掲示、意見箱も設置している。家族面会時には要望などを聴くようにしている。	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。意見箱を設置している。面会時や運営推進会議出席時などで、家族から意見や要望を聞いている。運営に反映させるまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議や、面談時に意見を聞く機会を設けている。	毎月開催しているグループホーム会議や人事考課時の面接などで、職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中で、管理者は職員の休憩時間などに気がついたことなど話し合い、意見や提案を聞いている。ヒヤリハット記録の変更について話し合い、出た意見を反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	GH会議や、面談時に意見を聞く機会を設けている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を出来るだけ設けるようにしている。	外部研修は、情報を提供し全職員に周知を図り、職員は救命救急法やグループホーム研修会に参加している。法人研修は、月1～2回テーマを決めて開催し、職員は参加している。参加者は欠席者への伝達を行い、共有している。内部研修は実施していない。	・内部研修の取り組み
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県GH協会に加入しているが、研修や交流の機会は殆どない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問調査で自宅を訪れ、穏やかな状態で本人から話を聞くようにしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時より、家族には状態を聞き取るように心掛けている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在は他のサービスを利用する例はないが、本人の状態や家族の要望を聞き取り必要な支援を行なって行きたい。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症の進行や状態の重度化に伴い、徐々に家事場面への参加が困難となってきたが、少しでも続けていけるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当職員が毎月入居者の状態を予定表と共にコメントして日頃の様子をつたえている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会などもある。可能な限り関係が途切れないように家族にも協力をしてもらっている。	友人や知人、家族、親戚の人の来訪がある他、家族の協力を得て、法事への出席や美容院の利用、馴染みの場所である錦帯橋やバラ園などにドライブにでかけるなど、馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者の関係を把握して和やかに過ごせるように支援してる。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来るだけの支援が行なわれるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画担当者を中心に、職員でセンター方式を取り入れ本人、家族の意向を取り入れている。	入居時に、家族や本人から聞き取った思いや希望をフェイスシートに記入したものを活用している他、入居後は、日々の生活の様子を生活記録に記入し、入居1か月後にセンター方式の「私の姿と気持ちシート」を利用して、思いや意向の把握に努めているが、生活記録に具体的な記録があまりなく、十分な把握とまではいえない。	・思いや意向の把握の工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	計画担当者を中心に、職員でセンター方式を取り入れ本人、家族の意向を取り入れている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	計画担当者を中心に、職員でセンター方式を取り入れ本人、家族の意向を取り入れている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画担当者を中心に、担当職員、職員でプランを作成している。	本人や家族、かかりつけ医、職員の意見を参考にして、毎月実施しているカンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。モニタリングを6か月毎に実施し、1年ごとに計画の見直しをしている他、利用者の状態に変化があるときには見直しを市、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は入居者の言葉など細かく記入して、情報の共有に努めている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診など本人の状況や、家族の状況に合わせて対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア（傾聴・紙芝居・生け花等）の来所により、入居者に楽しみのある生活が出来るようにしている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と相談して主治医を決めてもらっている。皮膚科や眼科、歯科については殆ど入居者は以前のかかりつけ医を継続されている。	本人及び家族の希望する医療機関をかかりつけ医とし、家族の協力を得ての受診や月2回の訪問診療、往診など、適切な医療が受けられるよう支援している。他科（皮膚科・歯科・精神科）受診も家族と協力して支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の施設長（看護師）や看護職員に入居者の状態を伝え相談を行い対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入居者の入院時には情報提供書を作成している。定期的に状態を把握、病院の相談員と連携してスムーズに退院できるようにしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度は看取りを行ったが、早い段階から主治医、家族と一緒に話し合いを行い支援してきた。	重度化や終末期についての事業所の方針を、入居時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、医師、家族、職員で話し合い、方針を共有して、支援に取り組んでいる。職員は法人研修の看取り研修に参加して学び、看取りを実施している。	
		転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	今年度からヒヤリハットの書式を変更し、状況・原因等精査し事故を未然に防ぐように努めている。	ヒヤリハット報告書の見直しにより、事故を未然に防ぐように取り組んでいるが、具体的な検証や話し合いが不十分で、対策が十分に練られているとはいえず、職員間の共通理解もとられているとはいえない。一部職員は救急救命講習に参加しているが、すべての職員が実践力を身につけているとはいえず、定期的な訓練はない。	・ヒヤリハット報告書の充実と活用 ・残職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人で地域の自治会との災害時応援協定が締結されている。職員が岩国市の防災メールに登録し最新の情報を取り入れられるようにしている。災害マニュアルもあり職員が防災手帳を所持している。	年2回、火災、風水害を想定した避難訓練を利用者も参加し実施している。法人全体で災害時の協力体制づくりをしている他、法人が地域自治会と災害時応援協定を締結している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関しては職員が毎月セルフチェックを行っている。	職員は法人の接遇研修で学んでいる他、法人全体で毎月決められた項目のセルフチェックがあり、職員は自己チェックをして、利用者一人ひとりを尊重したプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の入居者との関わりの中で思いや希望を聞きだし、本人が決定できるようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事とお茶の時間が決まっているだけで、後は自由に過ごしてもらっている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族が本人の好みの服を用意してもらっている。衣服選びの困難な入居者にはさりげなく介助をしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	各入居者の好みを取り入れたメニューを作成している。準備を一緒に行うことは中々出来ないが、片づけに関しては日常的に行われている。	利用者の希望を取り入れ、職員がメニューを考え、事業所で採れたサツマイモや玉葱、ジャガイモなど旬の材料を使い、三食とも事業所で調理している。利用者は、食材の下ごしらえやテーブル拭き、コップ洗いなどを職員と一緒にしている。利用者と職員は一緒に食事を楽しんでいる。誕生日、クリスマス会などの行事以外に、年4回のケータリングや回転寿司などの外食に出かけたり、お茶外出でケーキを楽しむなど、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の管理栄養士に食事に来てもらって献立などの助言を受けている。水分は毎食及びお茶の時間で水分補給をするようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	年に1度歯科医師の検診を受けて、口腔内の把握に努め、各入居者の状態に合わせて声掛けを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の介助を要しない利用者もいるが、入居者の状態を見極めながら援助を行なっている。	トイレでの排泄が自立している利用者が多く、排泄チェック表は作成していないが、利用者の状態を見て、さりげない声かけや誘導を行い支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態の把握に努め下剤の服用、水分補給、ヨーグルトやオリゴ糖の摂取、適度な運動を促している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日を決めることはせず各入居者の希望に添えるようにしているが、入浴拒否のある入居者には職員が本人の状態やタイミングを考えて声掛けをしている。	入浴は毎日、14時から17時まで可能で、週2～3回は入浴できるように支援している。ゆずを入れて楽しんだり、職員とのコミュニケーションを図り、一人ひとりがゆっくりと入浴できるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者のペースに合わせている。その日の体調も考慮して声掛けを行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅療養管理指導を受けており、各入居者の処方されている薬の理解につとめている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現在家事の中で、自分の役割を見つけている入居者もおられる為支援を続けていきたい。	ゴミ出しや洗濯物たたみ、部屋掃除、テーブル拭き、コップ洗い、畑での植え付けや収穫、ぬり絵、習字、DVDで歌をうたう、ゲーム、初詣、節分の豆まき、ソーメン流しなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ希望に添えるようにしているが、個別での外出は中々難しい。	事業所周辺の散歩やゴミ出し、コンビニエンスストアでの買い物に出かけたり、季節の花見(桜・菖蒲・バラ)や動物園、芝居見物などのドライブに出かけているなど、戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に入居者はお金を持っていない。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話がかけれる様に援助している。かかってくれば取り次いでいる。手紙も届くと本人に渡している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事はすべてホームで手作りしていて家庭と同じ、小上がり等には季節感を感じられるような装飾をしている。	共用空間は、温度や湿度に配慮し、中庭を回廊する廊下から自然の光が差し込んで、明るい。廊下にそった小上りには、季節の装飾がしてあり、憩いの場ともなっており、中庭に降る雪や食堂から見える梅の花やパンジーの花など、季節を感じることができる。食堂に面した厨房からは、調理の様子が見えたり、音や匂いがして、生活感がある。季節感や生活感をとり入れて居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内の到る所にソファや椅子を配置し、寛げる空間を提供している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた物の持ち込みをお願いしている。入居前に自宅を訪問して出来るだけ環境を同じようにするよう努めている。	居室は和室と洋室があり、それぞれに洗面所、トイレ、クローゼットが整備しており、入口の収納庫には、利用者それぞれの思い思いの飾りつけをしている。入居前の訪問により、自宅と同じような環境で過ごせるように支援しており、ベッドや布団、机、室内小物、家族の写真など、使い慣れたものや思い思いのものを持ち込み、居心地良く過ごせるよう支援している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の入口には、それぞれの目印となる飾り付けがある。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームかなえ

作成日：平成 27 年 6 月 12日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	24	入居者1人ひとりの思いや、意向の把握が十分でないところがある。	思いの把握に努めケアに反映させる。	出来るだけ具体的に入居者の言葉を記録し思いや意向を把握していく。	12ヶ月
2	35	緊急時の対応や事故時の対応に自身がない職員がいる。	全職員が危険予測ができ、緊急時に落ち着いて対応出来る。	再発防止策を職員全員で検討し、対策に努め実践力を身につけることができる。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。